



# 田上町 議会だより

第127号

令和2年4月24日発行



▲ 田上町梅林公園

## ■ 主な内容

3月定例会・2月臨時会	P2~3
陳情・発議	P4
予算審査特別委員会	P5~7
令和2年度予算	P8
一般質問（9議員）	P9~17
付託案件審査報告	P18~19
所管事務調査報告	P20
交流会館等建設調査特別委員会	P21
一部事務組合報告	P22
全員協議会	P23
「羽生田小6年生議場見学」／編集後記	P24

田上町議会  
フェイスブック



- ・ 令和2年度一般会計予算 48億円
- ・ 新型コロナウイルス感染症関連補正予算
- ・ 道の駅たがみ建設工事請負契約



▲ 2年度予算案起立採決

議案

【人事案件】

・ 教育委員会委員の任命

齋藤 美里 氏（新任）

任期は令和2年3月29日から4年間です。

・ 人権擁護委員の推薦

金森 恵子 氏（再任）

入倉 玲子 氏（再任）

川口 伊津子氏（再任）

【条例の制定】

・ 情報通信技術の活用による行政手続等に係る関係者の利便性の向上並びに行政運営の簡素化及び効率化を図るための行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

【条例の一部改正】

- ・ 職員の服務の宣誓に関する条例の一部改正
- ・ 手数料条例の一部改正
- ・ 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正

【条例の廃止】

・ 横場運動広場設置条例

【元年度補正予算】

・ 一般会計

・ 下水道事業特別会計

・ 集落排水事業特別会計

・ 国民健康保険特別会計

・ 後期高齢者医療特別会計

・ 介護保険特別会計

・ 水道事業会計

【請負契約】

- ・ 下吉田川No.3雨水調整池整備工事変更請負契約
- ・ 道の駅たがみ建設（建築本体・電気設備・機械設備）工事請負契約

【報告】（専決処分）

- ・ 下吉田川No.3雨水調整池整備工事変更請負契約
- ・ 地域学習センター補強・改修及び増築工事変更請負契約

【その他】

- ・ 水道事業会計予算繰越額の報告

各議案は、同意・可決しました。

## 【2年度予算審査特別委員会】

次の8議案を審議しました。

- ・一般会計
- ・下水道事業特別会計
- ・集落排水事業特別会計
- ・国民健康保険特別会計
- ・後期高齢者医療特別会計
- ・訪問看護事業特別会計
- ・介護保険特別会計
- ・水道事業会計

一般会計及び後期高齢者医療特別会計において反対の意見もありましたが、採決の結果、賛成多数で原案可決しました。

## 【追加議案】

報告・専決処分

- ・地域学習センター補強・改修及び増築工事変更請負契約の報告

元年度一般会計補正予算

主に新型コロナウイルス感染症対応に関する補正が上程され、総務産経、社会文教常任委員会で連合審査会を開き、合同で審査を行いました。

## 議員発議

- ・新型コロナウイルス感染症対策の強化を求める意見書

各議案は、原案可決しました。

## 第1回臨時会

期日 令和2年2月18日

## 【請負契約】

- ・下吉田川No.3雨水調整池整備工事変更請負契約

議案の内容に不備があり、撤回されました。



▲ 第1回臨時会付託案件審査（総務）

## 議会からのお知らせ

### 議会だよりにご意見をお寄せください

皆様からのご意見・ご提案をお待ちしております。

お寄せいただいたご意見は、今後の議会だよりづくりの参考にさせていただきます。

○ご意見は簡潔にまとめてお送りください。メール又はFAX、郵送でお願いします。

○住所、氏名、電話番号を明記してください。

○お寄せいただいたご意見、個人情報は議会内で厳重に管理し、目的以外での使用は致しません。

宛先：田上町議会事務局

郵送：〒959-1503 田上町大字原ヶ崎新田 3070 番地

FAX：0256-57-3113 e-mail：t3001@town.tagami.jp

### 議会を傍聴してみませんか

次の定例会は**6月17日(水)**からの予定です。

一般質問の日程は通告人数によって決まります。

議会開催が近くなりましたら、田上町議会HPでご確認ください。

ぜひ傍聴においでください。

田上町ホームページ <http://www.town.tagami.jp/> TOP → 田上町議会 → 議会開催のお知らせ



## 陳 情 等

番 号	件 名	陳 情 者
陳 情 第 1 号	「最低賃金の改善と中小企業支援の拡充を求める意見書」の採択を求める陳情書	新潟市中央区西堀通 3-799 西堀カメリア 207 新潟県労働組合総連合 議長 佐藤 一弥
陳 情 第 2 号	厚生労働省による「地域医療構想」推進のための公立・公的病院の「再編・統合」に抗議し、地域医療の拡充を求める陳情書	新潟市中央区医学町通 1-45 第2関本ビル2F 新潟民医連内 新潟県社会保障推進協議会 会長 五十嵐 修
陳 情 第 3 号	新型コロナウイルス感染拡大に伴う地域経済に対する支援についての要望書	田上町商工会 会長 野澤 幸司

## 議員発議による発議案

番 号	件 名	提出議員	議決結果	提出先
発 議 第 1 号	新型コロナウイルス感染症対策の強化を求める意見書	池井 豊	原案可決	内閣総理大臣 衆議院議長 参議院議長



▲ 感染予防のため、規模を縮小して行われた卒業式（左：田上小学校、右：田上中学校）

# 予算審査特別委員会



▲松原委員長

▲藤田副委員長

当委員会に付託された令和2年度予算案は一般会計48億円、特別会計を含む全体では90億7043万5千円となりました。重点事業には積極的に優先的に実施し、既存事業については長期的視点に立った行財政運営ができるよう留意し、事業規模の適正化、必要性などの検証、見直しを実施し、事業費5%削減を目標値とすることを念頭に予算編成がなされました。

令和2年度はまちづくり拠点整備の事業完成年度であり、オープン予定の道の駅、地域学習センター、そして昨年オープンした交流会館のそれぞれの機能を最大限活用し、町の賑わいを創出させるスタート年度でもあります。また、地域の安全、安心した暮らしの向上として防災行政無線の運用や、地域の足となる公共交通導入に向けた検討が進んでいくものと考えています。

予算審議は4日間に渡り、質疑数は252件と闊達な議論

がなされ、町長へ町の姿勢を問う総括質疑は6件ありました。

質疑の中では、竹の幼稚園において数年来、0歳、1歳児の入園を断るケースが生じており、保育の受け皿確保を求め、新型コロナウイルスが与えている町内への経済影響を鑑み、対応策の拡充や学校休校に伴う子ども達へのサポートや今後の対応など、様々な問題提起がなされました。特に竹の幼稚園の入園に関しては町内在住の入園希望者が全員入園できるように必要な措置を講じるべきと委員会の総意として町長へ申入れを行いました。

今秋オープン予定となる『道の駅たがみ』がコンセプトでもある『近き者説び、遠き者来る』のとおり、地域に根差し、町民の皆さんの憩いの場として愛される場所となるよう関係者一丸となつての取組が進んでいくことを期待しています。

委員長 松原 良彦



▲ 予算審査特別委員会審査の様子

町長への総括質疑

質疑件数6件

重点施策について

質問者 小野澤健一議員

**問** ①重点施策と言うからには、もっと年度ごとに項目や施策を絞り込んで実効性を担保し、効果の最大化を図る必要があると思うが見解を伺います。②重点施策に関しては、一般施策にも増して資金量の明記は必須である。各施策の予算計上額を伺います。③施策には優先順位が不可欠であると思うが順位について伺います。

町長

①町の最上位計画である『総合計画』の中の5本の柱であり、それを実現するための施策であることから、一般施策ではなく当然重点施策として実施するものであると考えています。②次年度の予算編成時において掲載方法も含め検討していきます。③重点施策は、どれも重要な事業であり優先順位を付けるべきではないと考えています。

少子化対策事業について

質問者 今井幸代議員

**問** 深刻に進む町の出生数の減少を鑑みると経済的負担軽減等、町が進めている少子化対策の有効性を検証すべき時期に来ていると考えます。町の実態に照らし合わせ、町が進めるべき少子化対策をゼロベースで検討し、見直すべきと思いますが、伺います。

町長

町は、緊急の課題である人口減少化対策に対応する為、『田上町総合戦略』の策定を行いこれに基づいて、限られた財源の中で、取り組みが出来る施策を実施しています。毎年、各施策や事業の実施効果を評価しながら、問題があれば、施策や事業の見直しを行っていきますので、今改めてゼロベースでの見直しは考えておりません。尚、令和3年春までには、妊婦、出産、子育てへの切れ目ない支援を行えるように、新たに『子育て世代包括支援センター』の設置に取り組む予定です。

予算における人口目標について

質問者 池井 豊議員

**問** 衛生費において、妊婦健康診査委託料が令和元年度60人で2年度が50人と減っています。予算は政策の方向性を示すものでなければなりません。単に前年実績により、予算上の人数を設定するのではなく、政策に対する思いを共有し政策推進室とすり合わせの上、目標値を設定し予算化をすべきと思いますが、いかがでしょうか。

町長

基本的な考え方としては、過去の実績に基づき予算計上してきたということであり、政策的な予算上において判断等の考えは持ち合わせていませんでした。今後は、保健福祉課と政策推進室とで予算計上の考え方についてすり合わせを行ったうえで提案していきたいと考えています。

田上町の各年度末(3月末) 人口及び出生数 (人)

	H 26 年度末	H 27 年度末	H 28 年度末	H 29 年度末	H 30 年度末	令和元年度末
人 口	12,443	12,223	12,069	11,916	11,677	11,490
出生数	70	48	51	41	43	43

町の特産品である桃、梅などの果樹栽培の今後について

質問者 今井幸代議員

**問** 予算審査で町の特産品である梅や桃の栽培が進まず、今後、収量が相当落ち込むとの見解が示されました。担い手不足もあり、今後、果樹栽培の衰退が危惧される現状の中、町長はどの様に捉え、今後の対策を検討していくのか。また町政運営における果樹栽培振興の優先順位はどの程度か伺います。

**町長** 町内における果樹等の担い手不足については大変憂慮しています。農業が魅力ある産業として選ばれづらく、高齢化に伴い後継者や新規就農者が入りにくい環境かと考えます。今後は県の方針でもある園芸作物の振興に向けて各生産組織から聞き取りを行いながら、どの様な施策が有効なのか、担当課を中心に、県や農協などと協議を進め複合経営に取り組みよう検討していきます。



▲ 特産品の桃、梅加工品



▲ 竹の友幼稚園0歳児保育室

0歳児、1歳児の保育需要を満たせない現状について

質問者 今井幸代議員

**問** 数年来、竹の友幼稚園では0歳、1歳児の入園希望者を断る事案が生じています。断る人数は数人ですが、需要を満たせない事への危機感が薄いと言わざるを得ません。入園問題は人口減少対策にも影響を与える問題と考えます。保育士不足や保育面積不足等の問題があるならば解決に向けての施策を展開するべきです。0歳児を受け入れる保育施設は竹の友幼稚園のみです。対応、対策について町長に伺います。

**町長** 幼稚園では、職員の処遇改善を図ることで人材確保に努めてきました。また0歳児からの受け入れ態勢を整える為、増築等も行い対応をしています。現在の定員は278名で内3歳未満児は98人であり現状の保育室では3歳未満児を増やすことができません。過去には、年度途中での入園希望に

対して、お断りをしたこともありました。しかし、まちづくりの最重要課題である少子化・子育て支援対策として、住民の保育希望を断ることがないように保育スペース確保等検討をしていきます。

国民健康保険の子ども均等割り課税の減免を

質問者 高橋秀昌議員

**問** 0歳〜19歳までの均等割りをゼロに提起した経過があります。全ての層を対象に出来ないなら一定の年齢層を対象に全額又は減額する事で、国保負担を減らすべきであり、子育て支援にもつながりますが、所見を伺います。

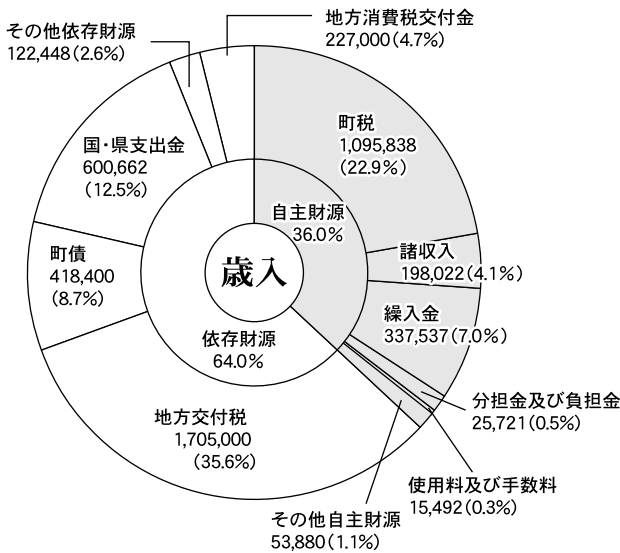
**町長** 元年度は、国民健康保険財政調整基金を活用し、町民の国保税率の引き下げを実施しました。又均等割課税の引き下げについては、本来であれば国にて検討されるべきと考えておりますが、独自で減免を行っている市町村もあり、現状を調査し、検討・研究をして行く必要があると考えています。

# 令和2年度各会計当初予算

## 一般会計 48億円

※31年度 55億1,600万円と比べ、  
7億1,600万円(△13.0%)減額

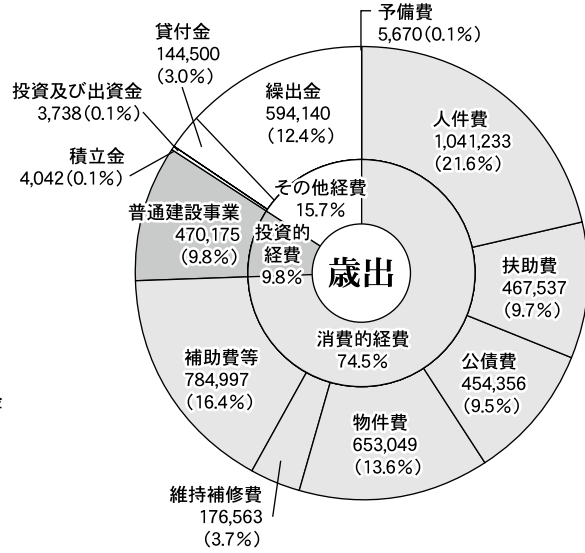
歳入予算財源構成比(単位:千円)



(図1)

図1は歳入財源の構成を表しています。歳入面では町税が減収となるほか、町づくり拠点整備事業費の減に伴い国庫支出金や基金繰入金、諸収入などが減となっています。また消費税の税率引き上げにより地方消費税交付金などが増となっています。地方交付税については、地方財政計画などを参考に積算した結果、対前年度比1.1%増の17億500万円が計上されています。

性質別歳出予算構成比(単位:千円)



(図2)

図2は使われる費用を性質別に分類しています。令和2年度も安定した財政運営に資する為、事業の検証、見直しを行い5%の事業費削減が目標となっています。町づくり拠点整備事業関連経費、同報系防災行政無線整備事業費のほか、生ごみ処理機購入費助成金、地域資源活用事業業務委託料、小型除雪車購入費、田上小学校構内道路舗装工事などが計上されています。

### 特別会計・企業会計

区	分	2年度	31年度	増減
下水道事業特別会計		8億7,000万円	8億9,000万円	△2,000万円
集落排水事業特別会計		8,750万円	7,900万円	850万円
国民健康保険特別会計		13億3,000万円	13億1,900万円	1,100万円
後期高齢者医療特別会計		1億4,100万円	1億2,900万円	1,200万円
訪問看護事業特別会計		4,100万円	4,200万円	△100万円
介護保険特別会計		14億3,600万円	14億100万円	3,500万円
水道事業会計	収益的支出	2億7,000万円	2億7,136万円	△136万4千円
	資本的支出	9,493万5千円	1億1,299万円	△1,805万5千円





わたなべ かつえい  
渡邊 勝衛 議員(文責)

## 災害時に要支援者の避難方法を個別に定めた計画は

町長：民生委員の方々の協力が不可欠で協議の場を設ける準備中

**町民の願いは災害時に無事避難できる体制に**

**問** 国は要支援者の避難の円滑化に向けて災害時に自力避難が困難な障害者やお年寄りのうち、河川の氾濫や土砂災害などの危険区域に住む人をリストアップするよう自治体に求めています。災害時の要支援者の避難方法を個別に定めた計画は策定しましたか。区長、防災士も協力を惜しまないと思いますが、今後の対応は。来年に予定される全町の避難訓練を考えると防災士会を作る時期が来ているのでは。同報系防災行政無線の個別受信機の申請数一覧は回収率八二・〇五％で希望が四三・五四％、辞退が三八・五一％、回収不能が一七・九五％。

現状と今後の対応について町長に尋ねます。

**町長** 個別計画の策定には、民生委員の方々の協力が不可欠で協議の場を設ける準備をしています。2年度も引き続き、防災リーダーの養成やフォロー

アップ研修等を通じ、自主防災組織の育成、支援を継続的に行います。防災士会を作る前にまずは各自自主防災組織に最低一人以上の防災士を育成し、各地区の育成率100%に向けて取り組むことが先決。戸別受信機は申請の意思未確認世帯、浸水想定区域内世帯、土砂災害警戒区域長や民生委員と相談し、継続的に必要性を伝えていきます。

**工業団地の売却については目標の設定を**

**問** 町長も平成31年度の施政方針で、産業の振興、活力あふれる町づくりの中で、人口減少対策の根幹となる働く場の創出につながり、さらに税収入の増加を含め、町の活力に大いに寄与することから、重要課題に本町上工業団地の企業誘致に積極的に努めてきたと思いますが進展はありましたか。工業団地内の町道にはゴミが捨てられることが多く、最近では皆さんの協力できれいになってきましたが、

今後の対応は。出店計画を撤回したPLANTからの違約金について、町民はいつ解決するか心配しています。現状と今後の対応について町長に尋ねます。

**町長** 企業誘致については、新聞広告を活用して、31年度4月からは県や各金融機関など関係機関に要請を行ってきました。各方面から問い合わせ等がありました。残念ながら今のところ新規の契約には至っていません。3月22日の国道403号バイパスの全線開通で交通の利便性が向上されることから、改めてパンフレットの作成や情報発信を行います。ゴミについては、警察からパトロール等の協力を頂き、町でも職員の巡視、ゴミ回収を行い、美化に努めます。PLANTについては、現段階において発言は控えたい。ご理解をお願いします。かかるべき段階で報告は必要だと考えます。

**学校施設環境改善交付金で安全で安心な田上町を**

**問** 文部科学省においては、教育研究環境の整備や科学技術イノベーションの推進等により、国民の安全・安心の確保、未来への投資による経済活力確保の維持、向上等を図り、台風19号を始めとした大規模災害からの復旧・復興を迅速に進めるため、早急の実施すべき事業を補正予算案に計上しました。三条市、燕市、弥彦村は申請しましたが町は申請しませんでした。

今回の対応について町長に尋ねます。

**町長** 町の事業にあたっては限られた財源の配分の問題があります。防災機能強化の必要性は十分理解していますが、今回の交付金申請は見合わせることにしました。



おのざわ けんいち  
小野澤 健一 議員 (文責)

令和二年度予算の名称は？ 町長：『令和時代の新しいまちづくり予算』

既存建物系公共施設の維持管理費は？ 総務課長：年間4億円超 交流会館・道の駅・地域学習センターで6500万円が新たに必要 合計で約5億円！

## 『令和二年度施政方針』について

問

令和二年度の施政方針は取り立てて強弱のない、特徴のない内容であり、町長の思い入れや覚悟が全く見えません。そもそも施政方針とは、執行側のトップである町長の決意や覚悟が示され、それが予算において金銭的に具体的に示されるものです。

そこで、改めて伺います。

① 今回の予算の名称は何か

② 田上町の最大の課題は何か、その解決のための具体的施策は何か

③ 町の最上位計画に位置付ける『第6次総合計画』の策定に際しての「新しい視点」とは何か

町長

① 『令和時代の新しいまちづくり予算』です。

② 最大の課題は人口減少ですが、国が根本的な施策を実施すべきです。（具体的施策示されず）

③ 「時代にあった視点」です。（具体的な視点は示されず）

問

田上町の最大の課題は確かに『人口減少』ですが、大切なのは、その行き着く先がどうなるかを見極め、今からできる対策を講じることです。

町民のみなさんにとって一番身近な問題は、飲食等小売業や医療機関等の生活に関連するサービス業の廃業です。

そうならないためには、一定の消費と一定規模の経済力が地元になくはなりません。特に、食と医療は生命にかかわる課題、生活に直結する問題です。

今後は町民総出で、地元循環型経済（『町民の町民による町民のための経済』）を創り上げることで、日々の暮らしを守っていく意識と行動が必要となると思います。生活関連サービス業者への政策を今後打ち出して行きますか。

※ 『経済』と言うと専門的に聞こえますが、そもその意味は『経世済民』の略で、「良い政治を行い、苦しんでいる人々を救う」の意味とされています。

町長

しっかりと対応していく必要があると考えています。

## 『公共施設マネジメント』について

問

田上町には『田上町公共施設等総合管理計画』が、平成28年3月に10年間の計画期間として作成されて、折り返しの時期にきています。計画策定時には、住民の参画を推奨する国からの示達もありましたが、実施されませんでした。

計画の内容や、その進捗状況を丁寧に町民に対して公表し、理解してもらう努力は未だに全くなされていません。

公共施設は町民の尊い財産であり、町民がその財産の状況を全く知らないのは、由々しき状況と言わざるを得ません。また、相当の維持管理費用がかかっているにもかかわらず、それも公表されていません。

建物系公共施設の維持管理費は、まもなく5億円弱となり、一般予算の一角にも達し、間違いなく財政を圧迫し、疲弊させる『隠れ負債』です。且つ更新費や修繕費を合わせると看過できない金額になるのが分かりま

す。

質問事項

① 現状の建物系公共施設の維持方針について

② 建物系公共施設の維持管理費はいくらか

③ 交流会館・道の駅・学習センターの維持管理費はいくらと見積もっているか

総務課長

① 本計画では全て維持していく計画となっています。

② 直近五年間の推移では4億円から4億2600万円です。

③ 交流会館が1600万円、道の駅が3000万円、学習センターが1600万円、の計6500万円が今後発生します。

（隠れ負債！）  
建物系公共施設の維持管理費5億円

町民の「知る権利」  
\* 主役は町民 \*



藤田直一 議員 (文責)

### めざすべき町のあるべき姿を『政策で見える化を』

町長：様々な人たちが住み続けたいと思う環境づくりが重要

これからの田上町ビジョンを明確に

**問** 昨年(2019年)12月24日に令和2年度予算編成について、会派『町民クラブ』として、

①公共交通の試験運行について  
 ②清掃センターの建設について  
 ③これからの田上町ビジョンを明確に  
 ④交流人口増加対策に護摩堂山のトイレ改修を  
 ⑤職員の増員についての5項目を要望書にまとめて町長に要望しました。

町長も町政を預かって今年の6月で丸2年が経過します。経済情勢や国の政策に左右されやすい町の財政、町税などの一般財源の鈍化で厳しい財政の中であっても町長の基本方針である『町民の幸福を追求する町づくり』を一步一歩進めていただかなければなりません。町長が目指す町づくりや、将来町の姿がどの様になるのかを分かりやすく示すべきだと思います。町の5年先10年先をどのように考え、どのような町にしていきたいのか、『これからの田上町ビジョン』について伺います。

**町長** 一定の経済成長を確保し、活力を維持するには、みんなが働き、知恵を出し合い、支え合う必要があります。多くの人材が活用され色々な能力が発揮できる社会環境を整備することが必須です。声なき声も大事にし、弱い立場に寄り添う行政でなければならず、同時に町に住んでみたい、住み続けたいという人をどう増やすか、町民の絆をいかに深めるかという観点で政策を立案するのが重要です。これはあくまでビジョンの骨格で、骨格に血を通わせ、肉付けしなければいけないと思います。



▲ 本田上工業団地

交流人口増加対策に護摩堂山のトイレ改修を

**問** 私は護摩堂山の環境整備について、機会ある度に話題として取り上げてきました。2018年9月定例会では①『護摩堂山アジサイの維持管理』が悪いと指摘し、2019年(令和元年)6月定例会では②『頂上で100万ドルの景色が展望できるように周囲の立ち木伐採』を提案、そして③『山頂の排せつ環境の改善でトイレ改修』を提案しました。①②については改善されましたが③については未定の状況です。町長の交流人口増加対策は、町の活性化へとつながる重要な政策の1つであると思っています。護摩堂山の地名は近郷ではブランド名になっており交流人口を増やせる一番身近な自然の施設です。是非ともトイレ改修について検討していただきたいと思いますが、町長に伺います。

また町内や町外の保育園児や小中学校の皆さんから来てもらえるようにPR活動もするべき

と思いますが教育長に伺います。

**町長** 護摩堂山の環境整備は平成30年度に引き続き令和元年度も山頂付近で眺望の妨げになつていた樹木の伐採等を行いました。アジサイ園もきめ細かな管理、環境整備に努めていきます。

**教育長** 町内では小学校は遠足や学習等で登山をしていません。中学校においては、遠足はありませんが、以前は護摩堂山の間伐等に多く参加していました。町外の園児、小学生がどれだけ園や学校として登山しているか詳しくはわかりませんが、時々見かけます。今後も町内外の子どもたちに護摩堂山を利用してもらえるよう努めていきます。



▲ 護摩堂山頂トイレ



いまい さちよ  
今井 幸代 議員 (文責)

## 幸福を追求するまちづくりの具体的なビジョンは

町長：町民が夢や幸せを自由に追い求めることができる環境をつくること

### まちづくりの具体的な未来図を

**問** 前回の一般質問において、町長は『町のグラウンドデザインは、はっきり申し上げて、自分自身描き切れていない、どういうまちづくりをしていくのか、これからの田上町をどういう方向に持っていくのか真剣に考えていかなければならない重要な問題だ』と答弁をされました。これを受け、町はどこに向かうのだろうか、町長はこの町をどういうふうにしていきたいのか、という疑問や不安を持つ町民の声が聞こえています。合わせて、価値感が多様化し、町民が行政に求めるニーズも非常に複雑化しています。そういった中、町長の政策理念である『町民の幸福を追求するまちづくり』の具体的なビジョンはどのようなものでしょうか。また、新年度一番注力をする事業がどのようなものか、そしてそれによってもたらされる結果、成果をどのように捉えていますか。

### 町長

町民が自分の夢や幸せを自由に追い求めることができる環境を作っていくということではないでしょうか。そして、幸福を追求するまちづくりのも一つの面は、人の幸せを願う心を持つまちづくりです。大事なことは、生活スタイルは変化してよいもの、変化しなければならぬもの、しかし心は変化してはならないものとして位置づけ、人の幸せを願う心をも一度呼び覚ます必要があるのではないのでしょうか。人の幸せを願う心、これは自分の幸せではなく、他人への心遣いや思いやりの気持ちです。

新年度は道の駅、地域学習センター、交流会館、この3つの核を中心とした新しいまちづくり事業のまとめの年となります。道の駅を中心に、いかににぎわいを創出し、それを交流人口、関係人口の増加に結びつけていくことができるか、ひいては町外からの移住者、定住者の増加にどう結びつけていけるかがこれからの大きな課題になるものと考えています。

### 問

町長の思いを実現する、地域の皆さんの夢や希望を追い求められる環境づくりとか、思いやりや優しさのある町づくりというのが抽象的で疑問が消えません。具体的なビジョンが伺いたいのです。

例えば、協働のまちづくりを進めたいと考えるのであれば、行政が唱えるだけでは変わりません。積極的に地域に関わり、楽しい、嬉しい、という気付きや、そういった体験ができる事業が必要だと思います。少子高齢化、人口減少が現実です。発展拡大型ではなく、縮小再編型にまちづくりを転換していかなければならぬのではないのでしょうか。人口増や税収増で町を支え、維持していくことは困難です。これからは町民の参画度合いをしっかりと増やし、地域の力、一人ひとりの持つ個の力を強くしていくということが町政運営、まちづくりにおいても非常に重要な観点だと考えます。

### 町長

町の皆さんから様々な場面で参画意識を高め、優れた人材を積極的に活用したり、意見が町政に反映するような工夫をしていきたいと考えています。新しいまちづくりにおいて町民の参画意識を高めたいという中でワークショップをやりたいと考えています。例えば、次の世代を担っていく小学生、中学生などの子どもたちからも町の魅力の掘り起こしや、また町がどんな町であつたらいいなというふうな、そういう夢とありますが、そうしたことも子どもたちから聞けるような機会が持てればいいかと、考えています。第6次総合計画、2年かけての仕事になりますけれども、しっかりと取り組んでいきたいなと思っています。

**その他の質問事項**  
・ブランド戦略について  
・政策立案、事業成果の検証について



こじま けんいち 小嶋 謙一 議員 (文責)

### 町民は「道の駅たがみ」に対する期待や高揚感が薄いのはなぜか

町長：これまで道の駅をイメージさせる材料が不足していたと思う

**町政に対する町民の関心が低いことについて**

**問** 町民には、道の駅たがみに対する期待や高揚感がいまだ薄いように思われます。このことを町長はどのように捉え、オープンに向けて町民の参加と協力をどのように得ていくの伺います。

**町長** 高揚感、期待感が薄いのは、道の駅をイメージする材料が不足していたからだと思えます。オープンへ向け国道四〇三号バイパス通行車両へPRするのぼり旗や、交流会館にオープンまでのカウンタダウン、完成イメージ図の展示を行うなど情報発信に努める他、指定管理希望者の「道の駅たがみ協同組合」と直売所の商品やフードコートメニューの紹介、試食会等を考えています。

どうやったたら行政に関心を持ってもらえるか、これは大変大きな課題であり、このことが最も大事だと捉えています。



▲ 本格着工前の「道の駅たがみ」建設地

**第六次総合計画策定にあたって**

**問** 策定にあたって、将来展望及びビジョンをどのように捉えるかがカギになると思うが、この点を踏まえ策定に取り組む決意を伺います。また策定業務委託料579万7千円の委託内容も伺います。

**町長** 高齢者が生きがいを感じ、若者が夢と希望を持てるまちづくりを町民と一丸になって進め、弱い人たちに寄り添うことを骨格にし、肉付けすることが総合計画策定の過程であると考えます。第6次総合計画の在り方は、町の若者、特に女性の参画を求めた中で幅広く意見を吸い上げ、町の課題を拾いながら新しい街づくりと計画を立ち上げていきたいと考えています。

委託業務は、基礎数値の分析や住民アンケート調査にワークショップの実施など、町民の意向を把握し、それを反映した基本構想の原案作成を予定しています。

**一次産業の振興について**

**問** 自主財源を伸ばすには一次産業の振興を図るべきであり、一次産業の持続にどのような考えを持っているのか伺います。

**町長** 田上町は園芸振興のひとつとして玉ねぎ生産の奨励を考えています。その一端として3月に竣工を予定している出荷施設整備があります。これは、全農新潟が事業主体になり、県や新潟市と歩調を合わせて生産体系の確立を目指した取り組みを行っています。その原資は国からの産地交付金の活用と、町の生産調整助成金の内容も園芸振興に向けた見直しを行う予定です。

また併せて後継者、担い手対策にも関係機関と連携し対応していきます。やはりコメ一辺倒ではなく県が推奨している園芸作物への転換政策に町もしっかりと乗っていく必要があると考えています。

**問** ハウス営農助成の予算措置と今後の対応について伺います。

**産業振興課長** アスバラ生産法人のハウスリースを、県の補助を使って、町から補助を行ったケースもあり、事例には充分支援していきます。

## 今こそベッドタウンとしての環境整備を！

町長：優良な宅地提供は人口減少対策に期待できる



つばき かずはる 椿 一春 議員（文責）

### 今こそ定住人口増加策として宅地造成を

**問** 令和2年度施政方針では、道の駅を拠点とする町づくり拠点整備事業を重要事業と位置づけ、交流人口増加を重要施策と位置付けています。

しかしながら、町の最重要課題は人口減少であり、重要事業は定住人口を増やす、人口増加策ではないでしょうか。3月22日、待望の国道403号バイパスの全面開通がなされ、新潟方面へのアクセスが向上された、このタイミングがチャンスです。

宅地造成計画の構想に着手して、民間デベロッパーなどの宅地開発事業者へ開発を斡旋するべきです。ベッドタウンを推進し、定住人口を増やす施策をアピールしてはいかがでしょうか、隣の秋葉区、矢代田駅からバイパス側は新築住宅が次々に建築されています。町長の見解をお尋ねします。



▲ 田上駅裏の宅地

### 町長

国道403号小須戸田上バイパスの全線開通や道の駅たがみの開業で土地利用は大きく変わることも予測されます。人口減少対策における優良な宅地造成については、私も効果が大きいと思います。

しかしながら、町の事業としての実施は難しく、ハードルが高いため、民間の力を活用した形で進められないかを研究していかなければならないと考えています。

### 魅力ある農業政策と6次産業化を

**問** 令和2年度の農業に関する予算は例年通りでした。今後の農業振興には、もっと活力を産む施策が必要と考えます。

県は稲作中心農業から園芸農業へ転換を推奨した取組をしています。町は、農業振興と農家所得を上げるための6次産業化に特化し、農商工連携事業を推進していくのが本来のあるべき姿ではないでしょうか。収益の高い園芸農業や魅力ある農業モデルを作り、地域おこし協力隊も受入れて、彼らにも移住ができるように支援を行い、若い世代の後継者が事業継承できる政策を推進していかねければなりません。近隣の弥彦村では、枝豆に特化した農業政策を打ち出して、村の一大事業としています。

町長の魅力ある農業、農商工連携のあり方についての考えをお尋ねします。

### 町長

秋田県、山形県も新潟と同じく水稲中心でしたが、数年かけて園芸作物の振興を図ることで農業所得の増大に繋がりました。現在は玉ねぎが研究されていますが、他の園芸作物にも若者が挑戦してもらえよう検討していきたいと思っています。

農商工連携については、生産者に対する有効な支援も協議会で検討する必要があると感じています。今後はより幅広く農産物の生産から加工、販売までを考慮して政策を打っていく必要があると考えています。



たかはし ひであき  
高橋 秀昌 議員 (文責)

## 基幹病院450床こそ県央医療のかなめ

町長：加茂病院は県営で総合病院を要請する

**花角知事は住民合意の医療計画を反故にするな  
県央は医師と病床数が最も少ない医療圏域**

**問** 花角知事誕生以前の県は、6年に及ぶ期間をかけて地元医療機関関係者と協議を重ね、県立加茂病院、県立吉田病院は県央基幹病院の後方支援として2次医療を担う総合病院と位置付けました。

高度救急医療機関がない県央地域に20床の救急救命センターを含む450床の基幹病院建設を決定しました。

県央基幹病院は、臨床研修指定病院の機能を持つ病院となり、確実に医師確保のため450床が必要だとし、地域の合意を得たものです。

当時の県の決定は、長きにわたる加茂、田上地域の住民の悲願が実現できる、命と健康を守る皆がようやく実現できるということ歓迎されました。ところが、花角知事が誕生して1年も経過しないうちに、住民との合意をほごにして、基幹病院の

病床数を50床も減らし、県立加茂病院は民間に任せて2次医療から撤退し、回復期と慢性期医療に後退させると発表。花角知事の提案は、あまりにも突飛ではありませんか。

**町長** 人口10万人当たり病床数や医師数、救命救急センターや高度急性期病床が無い状況を見ますと、県内7医療圏域の中で最も医療環境が不十分な地域と言わざるを得ません。県央医療圏域は、特に重症、中等症患者が域外搬送される割合が高い。域外搬送が増えることで重症、中等症の症例数も減り、病床数の減少と医師不足の悪循環に陥っています。医療環境をバ

ランスよく整えるために、県央基幹病院の開設が必要であると考えています。県立加茂病院に関しては、昨年12月26日に加茂市長、加茂市議会議員、田上町議会議員とともに県知事に要請しました。

**問** 1回の面会ではなく、2度3度と足を運ぶことを通じてぜひ県立加茂病院を守って頂きたい。ここが崩されると本当に

医療がダメになってしまいました。

**町長** 加茂病院は、総合病院として県営としていくべきです。県にしっかりと要請していきます。

**高齢者の補聴器に町の補助制度を就学援助制度の改善で支給を増やせ**

**問** 厚生労働省によれば、全国

の難聴の人は550万人に達すると言われております。耳が不自由な人は、相手との会話がうまくいかず、ご自分の中に引きこもってしまうことになりかねません。厚生労働省は、全国市町村に補聴器の購入助成を調査しており、国もその助成に乗り出す可能性がおります。そこで、当町においても高齢者の健康を守り、地域のコミュニティにも参加でき、認知症予防の観点からも独自の助成制度を創設することを提案しますが、町長の見解を求めます。

**町長** 補聴器購入の助成につきましては、令和2年度から県

内で3市町村が実施する予定であると聞いています。議員のご提案につきましては、高齢者のニーズなどを含め、十分に調査し、前向きに検討できるように思っています。

**問** 就学援助の制度は、平成17年度に国の補助制度が廃止となり、財政需要額に算入するとして自治体の事業にされたとききました。町の就学援助は県下30市町村中で最低です。町の所得水準は低く、消費税10%で住民はさらなる困難が迫られます。困難な家庭に対し、何人も教育を受ける権利がある。収入で教育の機会に差があってはならないことから就学援助制度があります。生活保護水準の1.5倍に改善すべきです。

**教育長** 援助率の状況などを調べ、検討していきます。





なかの かずみ  
中野 和美 議員 (文責)

## 令和2年度は福祉計画策定の見直しの年 町長の考えは

町長：子育て支援プランの策定・住み慣れた地域に共に暮らすことのできる環境づくりを目指す

### 子育て支援について

問

20歳から40歳の女性がどれくらい住んでいるかが市町村の未来を支え、消滅可能性都市から消滅しない都市へ引き上げる指標となるそうです。住みやすいと感じられるまちを構築していかなければなりません。

参考に2018年度中の児童虐待相談件数は15万9850件ありました。

子育て支援の目標は、現実的解決・対処能力の獲得・地域生活力の向上です。どの様に解決し、対処し、生活していけるのか、行政だけでなく、民間の力も借りながらサポート体制を作っていかなければならないでしょう。

子ども家庭相談の窓口、保育所での支援事業、保険センター、児童相談所、警察署、福祉事務所(県)など、担当の法律がバラバラで、窓口の整理が市町村の課題といわれています。今後の具体的な計画や取組み、考えなどお聞かせください。

町長

母子保健サービスと子育て支援サービスを一体的に提供できるよう、きめ細かな相談支援等を行います。その役割としては、妊娠婦等の支援に必要な状況の継続的な把握とともに、妊娠、出産、育児に関する相談に応じ、必要な情報提供、助言を行うこと、保健、医療、福祉、教育の関係機関との連絡調整とともに支援プランの策定をしていきます。

### 障がい者福祉計画について

問

滋賀県での取組「住み慣れた地域で働きたい・自立したいを応援する 障がい者働き暮らし応援センター」を紹介し

ます。障がいのある人や引きこもりの人を貴重な地域の担い手として掘り起こし、「働く」ことにごだわった取り組みを実践しています。すぐに雇用という形からではなく見学からスタートさせてくれる企業の方へアプローチし、就労につなげていく取

組みや「働きたい」人と地域の中の課題・困りごとを繋げた取り組み、「働きたい」の奥にあるものを見つめた支援、その言葉の裏には何があるのかと考え一緒に応援していくなど、働くということが、やりがい・生きがいになるように活動しています。何の障がいかは後のことで、どこに支援があれば暮らしていけるのか、地域の中で生きる人を育てるのだそうです。町長の考え方を聞かせください。



町長

私が思う障がい者支援は、障がい者団体や相談支援専門員など関係機関の意見を聞いた中で、障がいがあっても住み慣れた地域に共に暮らすことのできる環境づくりを目指すことです。

滋賀県での取組、すばらしい支援・制度であり、考え方もものが非常にすばらしい。本当に町としても参考にしていかなくてはならないと捉えました。

### コロナウイルスへの対応について

問

2月27日夕方、内閣総理大臣の急な休校要請に対しての対応を伺います。

町長

国内での発生を受け、町では2月7日に対策連絡調整会議を開催し、28日に警戒本部、3月2日に新型コロナウイルス感染症対策本部に移行し、対応に当たっています。





池井 豊 議員 (文責)

### 施政方針で『人口問題の取り組み姿勢を感じません』 政策推進室を中心に横断的な取り組みを！

町長：人口減少問題は、喫緊の課題であることは十分承知しています  
総合戦略の各事業をしっかりと取り組んでいきます

政策推進室を中心に、しっかりと人口対策を！

**問** 施政方針に『令和元年度の地方財政計画の水準を下回らないように実質同水準を確保する』とか『一方で少子高齢化や人口減少について今後も一層の深刻化が予想され』とかマイナス思考の表現が目立ちます。人口増加策や移住人口の増加、多子化とかはどこに行ったのでしょうか。政策推進室を中心とした人口増加策が必要なはずで、2年度は「第2次人口ビジョン」の作成もあります。人口増加策・移住者促進策の取り組み姿勢をお聞かせください。

**町長** 人口減少問題は、喫緊の課題であることは十分承知しています。これからしっかりと政策推進室を中心として、宅地開発なども視野に入れた中で検討していきます。

地域ブランド戦略で、田上のイメージアップを！

**問** 施政方針で『令和元年に「田上町ブランド戦略」への取り組みについて着手出来ました』とありますが、その成果をお聞かせください。

また『町の農産物や地域特性を活かした町のブランド戦略・シティプロモーションを推進するための計画作成・特産品開発を進める』とあります。ブランド戦略とプロモーションの具体的な行動計画をお聞かせください。

**町長** 元年度は農商工連携地域協議会で道の駅を活用した田上町の魅力の発信について検討を行ってきました。

2年度は、より多方面での動きを加速させる必要があります。田上町の認知度をアップするための各種の取組と交流会館を活用したイベント等を定期的に行うことにより、田上町の露出頻度を上げ、楽しい町、アクティブな町をPRしていきます。

地域おこし協力隊は、任期後定住出来るように！

**問** 元年度は地域おこし協力隊の採用に至りませんでした。魅力ある環境を用意し、定住につながる提案が必要です。元年度に採用につながらなかった原因と2年度の取り組み姿勢をお聞かせください。

**町長** 採用に至らなかったのは制度的な要件に当てはまらないう、あるいは本人の事情でした。隊員が自分の時間をうまく使いながら、起業に向けた準備もできる環境になればと考えています。採用につながるよう努めていきます。

「交流会館」と「道の駅」をまとめるプロデューサーを！

**問** 「交流会館」と「道の駅」のにぎわいを創出する為には、総合的なプロデューサーが必要だと思います。2年度の総合的な運営体制や運営指針をお聞かせください。

**町長** 総合プロデューサーの設置も含め、政策推進室を中心に具体的な実施運営などを練り上げていきます。



▲ 道の駅イメージ図

定例会・臨時会  
陳情・発議  
予算審査特別委員会  
令和2年度予算  
一般質問

## 総務産経常任委員会 付託案件審査

情報通信技術の利用に関する法律の一部改正による関係条例の整理に関する条例の制定

情報通信技術利用法の一部を「情報通信技術を活用した行政の推進等に関する法律」に改めるもので、施行に伴う関係条例を整理するための条例制定です。

職員のサービスの宣誓に関する条例の一部改正

会計年度任用職員のサービスの宣誓にあたり、任命権者は別に定めることができるとする改正です。

道の駅たがみ建設（建築本体・電気設備・機械設備）工事契約について

建築本体は小柳・渡大特定共同企業体と4億40万円、電気設備は大方・滝沢・阿部特定共

同企業体と8800万円、機械設備は中越大栄・武田・志田特定共同企業体と1億1330万円で、請負契約を締結するため議会議決を求めます。

元年度一般会計補正予算

予算の補正は年度末事業が確定したことによる増減整理を行ったもので、歳入歳出それぞれ1億2803万4千円を減額し、予算総額はそれぞれ54億6591万9千円になります。

歳入の増減整理で主なものは、国庫支出金によるプレミアム商品券の購入者が予定に満たなかったため、事業助成費を909万3千円減額しました。繰入金金は財政調整基金からの繰り入れを3109万円減額し、基金残額は7億6000万円になります。

町債では国から道の駅直売所の起債が認められたことが大きく、1億1980万円減額する

ことができました。

歳出では、まちづくり拠点整備事業を見直し2174万4千円を減額した他、県営圃場整備費が一部未実施のため1000万円の減、民間賃貸住宅建設補助金申請がなくなり500万円の減額等があげられます。

同年度下水道事業特別会計補正予算

事業の確定に伴い歳入歳出それぞれ3905万4千円を減額し、予算総額は歳入歳出とも8億5247万2千円になります。

同年度集落排水事業特別会計補正予算

事業の確定に伴い歳入歳出それぞれ387万4千円を減額し、予算総額は歳入歳出とも7653万円になります。

同年度水道事業会計補正予算

事業の確定に伴い収益的収入は、水道事業収益を430万円減額の2億4936万5千円とし、資本的収入及び支出は資本的収入を203万2千円減額し1496万2千円に、支出を500万円減額し1億1804万2千円になります。

収益的収入の水道収益430万円の減額は、暖冬による使用料の減少に伴う減収見込みによるものであり、資本的収入の203万2千円の減額は、県道新潟五泉間瀬線の配管移設工事が次年度になり、当年度の公共工事補償金を見込まないことによるものです。

審査の結果、付託議案は原案のとおり可決しました。

委員長 小嶋 謙一

### 主な議案内容

- ・令和元年度一般会計補正予算は歳入歳出とも1億2803万4千円減額し、総額54億6591万9千円に
- ・道の駅たがみ建設工事は総額6億170万円で契約

# 社会文教常任委員会

## 付託案件審査

### 手数料条例の一部改正について

デジタル手続法の改正により、マイナンバー通知カードが転居時等における負担軽減、デジタル化推進の観点から廃止されるため、その再発行手数料の規定を削除するものです。

### 放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部改正について

児童福祉法の一部改正で、厚生労働省基準の緩和により、児童クラブ支援員の資格基準及び資格要件の経過措置期間が設けられます。

これによって放課後児童支援員の資格基準に教員職員免許法第4条に規定する免許を有するもの、専門職大学前期課程修了者を加えることと合わせ、資格基準に5年以上従事者を加えるものです。



### 議論の中身

Q 資格基準や要件緩和によって支援員の質低下とならないか。また要件緩和の背景には支援員確保が困難となっている現状がある。待遇改善も含め検討されるべきではないか。

A 指導員の質低下とならないようしっかりと指導していきま。待遇改善も今後の課題として捉えていきたいと思。います。

### 横場運動広場の設置条例の廃止

信濃川河道掘削用地となるため運動広場を廃止するものです。

### 元年度一般会計補正予算

事業確定や事業見通しがついたことによる増減整理が主です。民生費では障がい者自立支援事業として673万円が増額、これは五泉市に放課後デ

イサービス等を行う事業所が新設され、利用者が増えたことによるものです。教育費では、薬科大のカリキュラム変更により、学校の調整がつかず理科支援員を確保ができず58万2千円の減額となりました。今後、大学への要請時期を見直し、理科支援員確保に繋がっていきます。

### 同年度国民健康保険特別会計補正予算

歳入歳出に10万8千円を追加し、歳入歳出それぞれ13億4094万3千円とし、電算業務委託費の追加にともなうものです。

### 同年度後期高齢者医療特別会計補正予算

歳入歳出に111万5千円を追加し、歳入歳出それぞれ1億3089万7千円とし、事業見通しがついたことによる増減整理です。

### 同年度介護保険特別会計補正予算

歳入歳出3646万5千円を

減額し、歳入歳出13億6499万3千円とするものです。交付決定や事業確定による増減整理によるものです。

### 元年度一般会計補正予算(新型コロナ対策関連補正)

歳入歳出に888万5千円を追加し、それぞれ54億7480万4千円とするものです。主なものは、職員の時間外勤務、マスク、消毒などの消耗品併せて89万6千円、中小企業対策として県の特別融資に伴う信用保証料助成として350万円、雇用調整助成金の申請経費補助として100万円、休校措置による児童クラブ指導員の賃金等に208万2千円を加えるものです。また幼児園のたまご組のマルチシンク設置工事が新型コロナウイルスの影響により、水栓の入荷が4月下旬に遅れるため、翌年度に事業が繰り越され、82万8千円を繰越明許費補正とするものです。

付託議案は原案のとおり可決しました。

委員長 今井 幸代

## 同報系防災行政無線 戸別受信機申請状況 (総務課)

戸別受信機申請書をほぼ全世帯の4116世帯に配布し、受信機を希望する世帯数は1792世帯(希望率43.54%)、辞退は1585世帯(辞退率38.51%)です。

受信機を希望する世帯が半数に満たない背景にはスマートホン等による情報取得も可能で、田上町は災害に対する危機意識が高くないことも考えられます。今後はアパート世帯の家主や、要支援者への対応も必要ではないかとの指摘がありました。

## 令和2年度水稲作付 面積等について (産業振興課)

生産目標数量は農業再生協議会で協議の上決定され、令和2年度の生産目安は3134tで昨年より19tの減量です。本年度も需給調整に取り組む必要から、生産調整推進助成を行ない

- ・令和元年度工事等の予算執行状況
- ・地区要望に対する執行状況
- ・下吉田No.3雨水調整池整備工事の設計変更について

## (地域整備課)

工事等予算の執行は道路・河川・公園等工事、上下水道工事に100%発注済みで、年度内に完工する見込みです。

地区要望に対する執行は、要望件数285件に対し執行は60件(執行率21.1%)です。下吉田No.3雨水調整池整備工事の設計変更は、軟弱地盤改良と暗渠工の増工が生じたための変更です。なお暖冬に伴い、除雪予算は残額が概ね1700万円見込まれます。

委員長 小嶋 謙一

## 高齢者福祉計画について (保健福祉課)

高齢者保健福祉計画は介護保険事業に密接に結びつき、3年を1期とし、令和2年度が現計画7期の最終年度であり、第8期の計画策定年度となります。

現在の状況(令和元6月末現在)	
第1号被保険者	4171人
第2号被保険者	3918人
高齢化率	35.8%
後期高齢化率	17.8%
要介護認定者	701人
特養待機者	85人

給付費の負担割合は保険料50%、公費50%となっているが

実質負担割合は自己負担額を除き、低所得者数、高齢者数に応じて決定される調整交付金を踏まえるとおおそ45%の公費負担となっています。現在町内で提供されていない介護予防、生

活支援サービス事業は短期集中予防サービスの通所型サービスC、移動支援の訪問型サービスD、訪問型サービス、通所型サービスに準じる自立支援に関する生活支援です。

町は、特に訪問型サービスと通所型サービスの一体的提供を進めていくため、平成30年度に生活体制支援事業として協議会を立ち上げ、ニーズ把握や調整などを行っているが、マンパワー不足や予算配分の上限などもあり、新たなサービスとして展開できないというのが現状です。

高齢者の方々が安心してこの地域に住み続けていけるよう地域コミュニティを活用した生活支援体制事業を粘り強く進めていくことと合わせ、次期計画策定に向けて町民ニーズや実態を的確に把握し、反映するよう求めました。

委員長 今井 幸代

第32回交流会館等建設調査特別委員会

道の駅の今後のスケジュールについて

期日 令和2年2月18日

令和元年12月27日、県の認可を受け、2年1月24日に『道の駅たがみ協同組合』として法人登記の完了が報告されました。

また、今後のスケジュールが示され、道の駅オープン予定が2年10月28日とされました。

法人名称

『道の駅たがみ協同組合』

法人役員等

代表理事（理事長） 野澤 幸司

副理事長 高野 泰雄

理事 須佐 剛

阪内 机由

渡邊 隆幸

熊倉 克昌

早津 紳也

馬場 大輔

長田 明子

第33回交流会館等建設調査特別委員会

地域学習センターについて

期日 令和2年2月27日

既存建物の基礎下部に鋼矢板による土留め工の追加の必要が生じたことにより、専決処分427万5700円が追加されました。

またその後、鋼矢板圧入方法を「単独圧入」から「硬質地盤圧入」に変更する必要が発生し、再度の専決処分484万2200円が追加されました。

変更後の契約額は、3億1601万7900円となりました。

★異例ともいえる同一案件の二度にわたる専決処分に疑問が提起されましたが、工程上発生したもので止むを得ないと判断されました。

委員長 関根 一義

議会からのお知らせ

田上町議会フェイスブックのご案内

町民の皆さんにわかりやすい議会をめざして、町政・町議会の情報を迅速に発信していきます。町のホームページからも閲覧できるようになりました。ぜひ、アクセスしてください。QRコードからでもアドレスを取得できます。

<http://www.facebook.com/tagamimachigikai>



議会会議録をホームページに掲載します

本会議および委員会会議録をホームページに公開しています。各定例会の約3か月後に公開となりますのでご了承願います。

加茂市・田上町  
消防衛生保育組合

12月定例会

期日 令和元年12月23日  
場所 加茂市役所

令和元年度一般会計補正予算、2年1月からごみ焼却場施設の補修を行います。3月までに完了しない見込みのため、債務負担行為の補正を行うもの。質疑では「加茂市の財政状況を問う」が有り、答弁では「財政健全化案が出来ている」との事でした。「計画的修繕がなされるべきだ」と指摘がありました。答弁では「今後このような財政運用の無いようにする」とのことでした。原案可決です。平成30年度一般会計決算を審査し、認定されました。

組合議員 高橋 秀昌  
関根 一義

池井 豊  
椿 一春

三条地域水道用水供給  
企業団議会

第1回定例会

期日 令和2年2月25日  
場所 三条地域水道用水供給企業団事務所

提案された議案は、令和2年度水道用水供給事業会計予算1案件です。収益的収入額は水道事業収益12億4997万9千円、支出の水道事業費用は8億9352万1千円で、差し引き損益は3億5645万8千円の黒字になります。又資本的収支の収入では10億2万1千円の予定額を定めるものです。

団体名	年間降水量 (mi)	年間給水料金
三条市	7,774,500	859,301
加茂市	2,190,000	166,838
田上町	839,500	61,310
計	10,804,000	1,087,449

提出議案は全会一致で可決しました。

組合議員

小嶋 謙一  
松原 良彦  
藤田 直一

新潟県中越福祉事務組合

第1回定例会

期日 令和2年2月25日  
場所 見附市まごころ寮

・会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の制定について  
・地方公務員法及び地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整備に関する条例の制定について  
・障害福祉事業使用料条例の一部を改正する条例の制定について  
・令和元年度補正予算(第2号)について

・令和2年度予算について  
・工事請負契約の変更について

6議案は原案どおり可決、認定されました。まごころ寮改修工事も順調に進んでおり、3月末に完成予定です。

組合議員

渡邊 勝備

新潟県後期高齢者  
医療広域連合

第2月定例会

期日 令和2年2月24日  
場所 新潟県自治会館

人事案件として副広域連合長に出雲崎町長、小林則幸氏が選任されました。

主な議案は保険料率改定に伴う条例改正と令和2年度予算です。

	現 行	令和2、3年度
均等割額	36,900円	40,400円
所得割額	7.40%	7.84%
賦課限度額	62万円	64万円
5割軽減基準	28万円	28万5千円
2割軽減基準	51万円	52万円
令和2年度予算		
一般会計	10億8164万3千円	
特別会計	2678億4049万2千円	

提出議案はいずれも原案同意、承認、可決されました。

組合議員

今井 幸代

## 全員協議会

期日 令和元年12月24日

### 公共交通について(2)

11月に開催された公共交通に関する全員協議会では、町民アンケートの分析方法で詳細が示されなかったことから、改めて地域別、年齢別区分等の結果が示された他、公共交通導入の背景、検討協議に至る経過も説明されました。

議論の中では、運行形態(定時定路線型か予約型か)、町外への運行のメリット、道の駅開業との関係、導入のタイミング(10月末)、導入経費(予算)等に議論が集中し、更に検討協議が進められることになりました。

期日 令和2年1月23日

### 公共交通について(3)

12月に引き続き、巡回バス(定時定路線)、予約型乗合バス・タ

クシー(停留所あり、ドアツードア)などの五つのパターンでの運行形態の比較が示され、議論が行われました。

当初方針では、定時定路線型でバス停を回る形態での実証運行(試験運行)のみを想定して行きました。これまで2回の議論の中では、予約型も組み合わせたい方向での運行を検討するべきとの方向になり、今回の議論でも定時定路線プラス予約型又は福祉タクシー券制度の拡充、町民にとって使い勝手の良い方法の検討、交通弱者への対応等多くの質疑がありました。今後、ゼロベースで検討することとなりました。

期日 令和2年2月18日

### 公共交通について(4)

4回目となる協議では、ゼロベースでの運行形態の見直しが行われ、「定時定路線型と福祉タクシー券の拡充」、「定時定路線型と予約型乗合タクシー」、「予約型乗合タクシーと無料巡回バス」の3パターンで、運行の内容、経費試

算、メリット、デメリット等が説明されました。その結果、「予約型乗合タクシーと無料巡回バス」で実証運行を行っていきたいとの方向性が示されました。

議論の中で、交付税の関係での料金設定の考え方、バス停の設置、車両の確保、公共交通会議での十分な議論も必要ではないか等の意見が出されました。今後は示された方向性を基本として、事業が進められます。

期日 令和2年3月6日

### 新型コロナウイルス中小企業者支援について

新型コロナウイルス感染症の拡大により、町内事業者の売り上げ減少や今後の資金繰り、雇用の安定を図るため、緊急的な支援策が創設され、その概要が報告されました。

金融支援策は、県が実施する「セーフティネット資金特別融資」の利用時における信用保証料に対し、町が助成を行うもので、融資限度額1000万円以内の借入に、保証料(年0.35〜1.8%)の100%を助成するものです。

町では商工会と連携し各事業所の現状把握と要望の聞き取りも随時行っていくとの説明もありました。

議長 熊倉 正治




▲ 全員協議会の様子

# 小学6年生 議場見学

2月12日に社会科「わたしたちの暮らしを支える政治」の学習で、羽生田小6年生が議場を見学しました。議員役、執行役に分かれて模擬議会も行われました。議会宛に感想文が届きましたので、一部をご紹介します。

田上町役場のみなさんへ  
 田上町役場のみなさん、議場を見学させて下さいありがとうございました。そして見学するだけでなく議員さんたちとの交流もとてもいいありがとうございました。みなさんが議場で話しているのは、私たちは安心して暮らすことができ、そして、僕は、このように暮らしていることを誇りに思っています。常に感謝を伝えたいと思います。最後に僕は、未来の田上町が安心、安全に暮らせて、自然豊かな町で、そして、田上町が事故や災害が争うことのない町になること、自然が美しい町になること、そして、僕は、議員さんという仕事を入れてみようかなと思います。議場見学ありがとうございました。



議場について、くわしく教えていただきありがとうございました。資料をたくさん読み、聞いてみると、教科書にはのっていないことも知ることができました。「議会って、市民のために町民の暮らしがよくなるようにいろいろなことをやっているんだな」と思いました。そして、この話を聞いて、私も町民の一人として何かしたいなと思いました。今は何とでもなく、大人にならう。議会のように私達の住む町をより住みやすく、たれか不自由な生活がでるような町にしたいと思うようになりました。そして、議会について知りたくなりました。議員さんについて、もっと知りたくなりました。今回、議会の大切さ、議会があるから町がよくなるんだなということがわかりました。議会のことについて教えていただき、ありがとうございました。

この前は、議場について教えていただきありがとうございました。私が心に残ったお話が3つあります。1つ目は、議長さん、副議長さんたちはどちらも休まないというお話です。議長さん、副議長さんは体調管理もしっかり行っているのかなと思いました。2つ目は、28年以上も議員さんをやっている人がいるというお話です。それだけ田上町のことを考えているから28年も議員さんができるんだなと思いました。3つ目は、議会はいつも開かれているわけではないということです。1年に4回もの話し合いで田上町のことを決めているんだなと初めて分かりました。私は議員さんたちは、田上町のことを第一に考えて話し合っているんだなと思いました。



- 広報常任委員会
- |      |        |
|------|--------|
| 委員長  | 中野 和美  |
| 副委員長 | 渡邊 勝衛  |
| 委員   | 今井 幸代  |
| 委員   | 小嶋 謙一  |
| 委員   | 藤田 直一  |
| 委員   | 品田 政敏  |
| 委員   | 小野澤 健一 |

(藤田 記)

今冬は寒波が来ない、異常と言ったべき暖冬でした。そして昨年12月には、中国の武漢で最初に新型コロナウイルスが見つかって以来、感染は世界中に広がっています。自然界の成せる技には、只々驚くばかりであります。私達の英知で近いうちに新薬も開発されることでしょう。過剰に心配することなく、手洗いを徹底して、健康管理に努めていきましょう。

編集後記